

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
2010年秋の大会 総会議事
(2010年9月16日 12時～13時 北海道大学M会場)

議 事 次 第

進行：横山委員

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 部会長挨拶 | 占部部会長 |
| 2. 部会表彰関連の内規について (資料1) | 山澤委員 |
| 3. 表彰式 | 授与 占部部会長
進行 山澤委員 |
| 4. 部会規約の改定について (資料2) | 高橋委員 |
| 5. 部会の体制について (資料3) | 横山委員 |
| 6. 委員会等報告 (資料4) | 各担当委員 |
| 7. 部会主催・共催シンポジウム等について (資料5) | 高橋委員 |
| 8. 2011年春を含む今後の部会企画について (資料6) | 栗原委員 |
| 8. その他 | |
| 9. 閉会挨拶 | 山澤副部会長 |

以上

表彰制度検討小委員会
部会賞選考小委員会

部会賞創設と候補者選考の経緯

2010年3月 塚田委員より部会賞創設の提案

2010年3月 部会長，副部会長，塚田氏の協議により，部会表彰制度を検討するために部会表彰制度検討小委員会を設立することについて，運営小委員会への提案することで合意

2010年4月 表彰制度の骨格と内規案作成を目的とする部会表彰制度検討小委員会の設置を運営小委員会へ提案と承認
メンバーは部会役員の職制発令（部会長：占部，副部会長：服部，山澤，総務主担当：横山，編集主担当：木名瀬，企画主担当：永井，プログラム主担当：塚田，若干名の運営委員：杉浦），

2010年4月－6月 表彰制度の骨格について3回のメール審議，内規案について1回のメール審議にて内規案を策定

2010年6月 内規案を運営小委員会で審議決定

2010年6月 検討小委員会を廃止し，そのまま部会賞選考小委員会に移行（検討小委員会設立時に運営小委員会にて承認された事項）

2010年6月－7月 選考に関する覚書の審議，決定

2010年7月－8月初旬 候補の選出・推薦：覚書に定められた要件による選出（論文の査読点の上位，学会発表回数等）のみで，委員からの推薦なし。

2010年8月 選考小委員会委員審議および投票による表彰予定者の決定（別紙）

2010年8月 運営小委員会への選考結果の通知と承認

2010年8月 表彰予定者への通知と，部会加入および受賞意思の確認
全対象者は受賞意思有り，部会新規加入5名

2010.07.12 運営小委員会承認

2010.09.16 部会全体会議承認

原子力学会保健物理・環境科学部会表彰に関する内規

(目的)

第 1 条 本内規は、「規程 37 日本原子力学会 部会・支部表彰制度規程」第 2 条に基づき、当部会の表彰の種類、数、要件および選考方法を定めるものである。

(趣旨)

第 2 条 一般部会員による優秀な研究発表、継続的な発表等の部会に寄与する発表、学生・若手による将来性のある研究発表を表彰し、保健物理・環境科学分野の発展を促すことを趣旨とする。

(表彰の種類、数、要件)

第 3 条 表彰の種類、数及びその要件は以下のとおりとする。

(1)論文賞 若干名

部会員の投稿論文で、保健物理・環境科学分野において 完結し優れた成果を含むもの。ただし、学会本体の賞（論文賞、技術賞等）に該当するものはそれを優先し、重複して表彰しない。

(2)学術貢献賞 若干名

部会員あるいは部会員を主要構成員とするグループ等の業績で、長年にわたり継続して学会で成果を発表するなど、部会の研究領域に対して学術あるいは技術面で貢献したものの。

(3)講演賞 若干名

部会員による学会発表で、発表内容および発表技術が優れているもの。

(4)新人賞 若干名

部会に属する修士課程までの学生による学会発表で、研究の発展性があり将来性が高いもの。

2. 同一の業績に対しては、何れか一つの賞を授賞するものとする。

3. 論文賞、学術貢献賞および新人賞については過去 3 年間、講演賞については過去 1 年間の業績を対象とする。ただし、表彰選考小委員会で特別な事由が

あると認められた場合は、それ以前の業績を対象とすることができる。

(表彰時期)

第4条 毎年秋の大会において賞状授与等により表彰することとする。ただし、秋の大会において表彰が行えなかった場合は、翌年の春の年会で表彰することができる。

(表彰選考小委員会)

第5条 表彰対象者(団体)の選考は表彰選考小委員会が行い、運営小委員会に諮り決定する。

2. 表彰選考小委員会は、部会長、副部会長、企画主幹事、学会プログラム委員(責任委員1名)、編集委員(責任委員1名)、総務主担当、および必要に応じて部会長が指名する運営委員若干名により構成する。

3. 表彰選考小委員会に委員長を置き、部会長が兼ねる。委員長は選考事務を司る。

4. 表彰選考小委員会に委員長の指名により幹事を置くことができる。

5. 選考小委員会の構成員の任期は運営委員の任期と同じとする。

6. 選考の方法および表彰の方法の詳細については、「部会賞選考方法に関する覚書」として表彰選考小委員会が決定する。

(選考における配慮事項)

第6条 表彰の趣旨に鑑み、各賞の選考に当たっては、部会の将来を担う若手および学生に配慮する。

(改定)

第7条 本内規の改定は、部会運営小委員会の発議に基づき、部会全体会議での審議を経た後、表彰・推薦委員会での承認を要する。

2010年 保健物理・環境科学部会賞選考結果

2010.08.12 選考小委員会 決定
2010.08.20 運営小委員会 承認

2010年 部会論文賞 選考経過: 査読時の採点結果に基づき候補を抽出し、採点結果を尊重して選考小委員会の投票により選考。

番号	表題	所属	氏名	掲載情報	選考理由
1	安全解析のための数値モデルによる排ガス大気拡散予測および被ばく線量評価－風洞実験と数値モデルによる放出源の有効高さ・被ばく線量－	電力中央研究所	佐田幸一 SADA Koichi 込山有人 KOMIYAMA Sumito 道岡武信 MICHIOKA Takenubu 市川陽一 ICHIKAWA Yoichi	日本原子力学会和文論文誌、Vol.18, No.2, 184-196 (2009)	数値モデルによる放射能放出源の有効高さ評価するとともに、数値モデルおよび風洞実験により評価した放出減の有効高さを検証したものでばく線量評価手法の妥当性を検証したものである。本研究は安全審査の合理化に関する基礎的知見を与えるもので、将来の環境安全、特に、環境の線量評価実務に寄与するところ大である。
2	Estimation of Total Amounts of Anthropogenic Radionuclides in the Japan Sea	日本原子力研究開発機構	伊藤 集通 ITO, Toshimichi 乙坂 重嘉 OTOSAKA, Shigeyoshi 川村 英之 KAWAMURA,	Journal of NUCLEAR SCIENCE and TECHNOLOGY, Vol. 44, No. 6, 912-922 (2007)	本研究は、日本海における放射能のイベントりおよび動態について、海水中濃度などの実測値に基づき詳細に評価したものである。本研究の成果は、将来の環境科学、特に、海洋放射能研究に役立つものである。

2010年 部会学術貢献賞 選考経過: 学会発表実績に基づき選考小委員会の審議により選考。

番号	所属	氏名	対象業績	選考理由
1	日本原子力研究開発機構 SPEEDI-MPI開発チーム	永井晴康, 寺田宏明, 中山浩成, 小林卓也, 西沢匠人, 都築克紀	口頭発表 (2008秋、2009春・ 秋、2010春:計17)	原子力緊急時対応システムとして開発したSPEEDI、WSPEEDIを発展させ、様々な環境研究に適用可能な数値環境システムSPEEDI-MPIを構築し、大気・陸域・海洋複合系での相互作用と物質交換を考慮した結合計算を目指し、地球環境における放射性物質の移行評価を可能にするものである。

2010年 部会講演賞

該当なし 初回につき座長等の投票データが得られなため、選考を行わないこととした。

2010年 部会新人賞 選考経過: 学会発表実績に基づき選考小委員会の審議により選考。

番号	所属	氏名	対象業績	選考理由
1	発表時: 名古屋大学大学院工学研究科 (博士課程前期) 現在: 中部電力	玉木 健介	口頭発表(2008秋、 2010春:計2)	可搬型カスケードインパクターを用い迅速な放射性エアロゾル粒径分測定を検討し、一般屋内空気中の放射性エアロゾルの粒径分布を求め、季節変動・日内変動・日々変動を評価した。これによって、変動要因を加味した実測値を基に粒径別放射性エアロゾルによる内部被ばく線量評価が可能になった。

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会

第 6 期(2010-2011)、学会委員等名簿

【役員】

部会長 : 占部逸正 (福山大)
 副部会長 : 山澤弘実 (名大)、服部隆利 (電中研)
 会計監査 : 高橋千太郎 (京大)

【運営委員】(354 名)

飯田孝夫 (名大)、飯本武志 (東大)、石森有 (原子力機構)、植頭康裕 (原子力機構)、
 内田滋夫 (放医研)、占部逸正 (福山大)、柿内秀樹 (環境科研)、木名瀬栄 (原子力機構)、
 栗原治 (原子力機構)、小嵐淳 (原子力機構)、小池裕也 (東大)、小佐古敏荘 (東大)、
 佐々木道也 (電中研)、杉浦紳之 (近大)、高田千恵 (原子力機構)、高橋千太郎 (京大)、
 高橋知之 (京大)、竹安正則 (原子力機構)、塚田祥文 (環境科研)、外川織彦 (原子力機構)、
 床次眞司 (放医研)、永井晴康 (原子力機構)、橋本周 (原安委)、服部隆利 (電中研)、
 ニツ川章二 (RI 協会)、本間俊充 (原子力機構)、三浦太一 (高エ研)、宮川俊晴 (日本原燃)、
 宮崎振一郎 (関電)、百瀬琢磨 (原子力機構)、森泉純 (名大)、山澤弘実 (名大)、
 山西弘城 (核融合研)、横山須美 (藤田保健衛生大)、米原英典 (放医研)

【学会委員】

代議員	米原英典 (放医研)	2010～2011 年度
	外川織彦 (原子力機構)	2010～2011 年度
部会等運営委員	高橋知之 (京大)	2010～2011 年度
学会誌編集委員	木名瀬栄 (原子力機構)	2008～2010 年度
	森泉純 (名大)	2008～2010 年度
	塚田祥文 (環境科研)	2010～2012 年度
	山西弘城 (核融合研)	2010～2012 年度
学会プログラム委員	高田千恵 (原子力機構)	2009～2011 年度
	横山須美 (藤田保健衛生大)	2008～2010 年度
(枠組み編成)	栗原治 (原子力機構)	2010～2011 年度
日韓原子力学会学生・ 若手研究者交流事業運営連絡会担当	飯本武志 (東大)	2005～未定

【第 6 期部会内担当委員】

総務・渉外担当 : (総) 横山須美、(渉) 飯本武志、柿内秀樹、高田千恵、佐々木 道也
 会計担当 : 森泉純、小池裕也 (会計立案、処理、報告)
 広報担当 : 石森有、竹安正則 (HP、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)
 企画 WG 幹事 : 永井晴康、栗原治 (部会企画の立案、運営、プログラム作成等)
 企画アドバイザーWG : 高橋千太郎、宮川俊晴、杉浦紳之、高橋知之 (部会等運営)、
 飯本武志 (渉外・部会等運営)、「テーマ提案者」
 表彰制度検討小委員会 : 占部逸正、山澤弘実、服部隆利、杉浦紳之、塚田祥文、永井晴康、
 木名瀬栄、横山須美

平成 22 年 9 月 16 日

木名瀬

編集委員会の状況

1. 保健物理と環境科学分野担当編集委員

木名瀬 栄 (JAEA)

森泉 純 (名大)

山西 弘城 (核融合研)

塚田 祥文 (環境科学技術研)

2. 学会誌 連載講座 ICRP 新勧告

順調に刊行されている。担当は、三浦 (KEK) 前編集委員。

編集委員等からのコメントとして、執筆者の書き順は、貢献度の大きい順にする。

また、内容が難しく、論文調であるので、易しくし、3 頁の解説にしてほしい。

3. 論文誌

- ・ 順調に刊行されている。滞りない査読進捗を目指す。
- ・ 論文審査の Web 化準備推進。2010 年より実施予定。
- ・ 一般社団法人化に向けた規定類の改訂
- ・ 論文誌の価格値上げ検討
- ・ 継続的発行と質の向上努力、英文論文誌は代表的な国際誌としての地位確立
JCR 2009 インパクトファクター IF 0.472 (参考) 韓国原子力学会誌 IF 0.991
- ・ 国際会議の Proceedings の対応

ISORD-5 Proceedings は、Journal of Nuclear Science and Technology (JNST) Supplement ではなく、Progress in Nuclear Science and Technology (Prog. Nucl. Sci. Technol.) (新設) として刊行する予定。

4. 英文誌海外出版社共同出版

海外大手学術雑誌出版社であるテイラー & フランシス社より、本学会英文論文誌の出版業務全般を引き受けたい (共同出版したい) との申し出が来ている。現在検討中。

5. 2010 年度原子力学会賞論文賞推薦

6. その他

以上

【日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業運営連絡会】
2010 春の大会（茨城大）
議事録（案）

日時：平成 22 年 3 月 27 日（土）15:00～16:00

場所：茨城大 会議室 2（共通教育棟 2 号館 31 講義室）

出席者：石橋健二（九大，部会グループ I）、稲垣八穂広（九大，部会グループ III）、
飯本武志（東大，部会グループ IV）、望月弘保（福井大，部会グループ V）、
城隆久（JAEA, YGN）、

議事

○各部会グループ活動計画

H22年度の活動計画について、以下の報告があり承認された。

【部会グループIV】

保健物理・環境科学部会

3rd Asian and Oceanic Congress on Radiation Protection(AOCR-3)期間中に、日韓学生を中心としたサマーセミナー「保健物理・環境科学2010」を開催（H22. 5. 24-28 at 東京）。韓国学生旅費等の補助を申請（計50万円）。

* 具体的な手続きを学会事務局と進める事。

【部会グループI】

4 部会（加速器・ビーム科学、核データ、放射線工学、炉物理）合同サマースクールを H22. 7 末に韓国において開催予定

【部会グループV】

4 部会（熱流動・原子力発電・計算科学技術・原子力安全）合同サマースクールを H22. 11. 11-12に韓国において開催予定。

○新設部会（水化学部会）の所属グループ

水化学部会について希望を再度確認の後、次回連絡会にて提案のこと（担当：石橋委員長）。

○ その他

- ・ 委員名簿の確認／更新（稲垣→各グループ委員→稲垣）
- ・ 各部会グループセミナーのスケジュール／予算の調整
→各部会グループのセミナー開催が同一年度に重ならない様な工夫が必要。
（今後の課題）

Information/Opinion Exchanging Session Among Asian Students

-Health Physics & Environmental Sciences 2010-

financially supported by the project of Atomic Energy Society of Japan *
(*Japan-Korea Joint Seminar for Students)

May 27 (Thu), 2010

Academic activities and career plans of students from Asia and Oceania Small Hall, 14:00 – 14:50 Chair: Tatsuhiko Ogawa (Japan)		
14:00 – 14:10	Presentation 1	Jang Han Ki (Korea)
14:10 – 14:20	Presentation 2	Hajime Shinba (Japan)
14:20 – 14:50	Panel discussion among students from Asia and Oceania	
The present situations and issues of radiation applications in Asia and Oceania 15:00 – 15:50		
Small Hall	<u>Theme 1: Agricultural applications</u> Chair: Sungkoo Cho (Korea) Presentation 1 Presentation 2 Panel discussion	Jung-Ae Kang (Korea) Takahiro Hirako (Japan)
Event Hall Zuiun	<u>Theme 2: Medical applications</u> Chair: Haeng-Ran Seo (Korea) Presentation 1 Presentation 2 Panel discussion	Chang-Heon Choi (Korea) Kotaro Tani (Japan)
Event Hall Heian	<u>Theme 3: Industrial applications</u> Chair: Jong-In Byun (Korea) Presentation 1 Presentation 2 Panel discussion	Mi Hee Choi (Kora) Shoji Kajihara (Japan)

平成 22 年 8 月 2 日
保健物理・環境科学部会
AOCR-3 事務局

「日本原子力学会日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業」
に関する会計報告

件名：日本原子力学会「日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業（2010）」

助成金額：50 万円（対象部会：保健物理・環境科学部会）

用途：韓国学生（10 名）に対する「保健物理・環境科学 2010（第 3 回アジア・オセアニア放射線防護会議（平成 22 年 5 月 24 日（月）～28 日（金））のなかで開催）」への参加活動に関する補助金として

※韓国からの学生参加者は 13 名であったが、本助成の対象となる 10 名の選考は、韓国側の判断に任せた。

内訳：

(1) 韓国学生参加費

45,000 円/人（学生）×10 名＝450,000 円

(2) 韓国学生国内交通費補助

期間内滞在地（東大検見川宿舎（JR 新検見川駅））と会場（タワーホール船堀（都営新宿線船堀駅））間の往復交通費

1,000 円/人・日×10 人×5 日＝50,000 円

(1) + (2) = 計 500,000 円

【参考】

1. 助成対象者氏名

Mr. Jang Han Ki, Mr. Sungkoo Cho, Ms. Jung-Ae Kang
Dr. Haeng Ran Seo, Dr. Ki Moon Seong, Mr. Jong In Byun
Ms. Mi Hee Choi, Mr. Yang-Kyun Park, Mr. Jung-in Kim,
Mr. ChangHeon Choi 計 10 名

2. 学生に対する助成について

本助成の対象からもれた韓国学生、また、同事業の活動に参画した日本人学生、日韓以外の外国人学生すべてに、保健物理・環境科学部会または AOCR-3 事務局として別の枠組みで予算を用意し、同レベルの助成を行った。

以上

平成 22 年 9 月 16 日
AOCR-3 事務局

日本原子力学会保健物理・環境科学部会 御中

「AOCR-3 開催にかかる助成金」に関する会計報告

助成金額：109,200 円（学会事務局から助成対象者口座に直接振込）

用 途：第 3 回アジア・オセアニア放射線防護会議（平成 22 年 5 月 24 日（月）～28 日（金））
への参加活動に関する学生宿泊費の補助として

支払対象者：

小川達彦、嶋田和真、鈴木ちひろ、谷幸太郎（東京大学）・・・ 7,800 円/人
新葉一里（近畿大学）、里藤裕隆（神戸大学）
森下祐樹、平 貴大、平尾茂一（名古屋大学）・・・ 15,600 円/人
9 名

【参考】

1. 学生に対する助成について

本助成の対象からもれた同事業の活動に参画した学生すべて（国籍を問わず）に、
日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業（2010）または AOCR-3 事務局と
して別の枠組みで予算を用意し、同レベルの助成を行った。

2. 検見川セミナーハウスの使用料

		<u>総額 707,000 円</u>	
内訳	施設利用料	45,600 円	
	セミナー室使用料	11,820 円	
	施設内食事代	72,980 円	
	宿泊費	576,600 円	（※東大 9 名、他大学 33 名）

以上

活動報告

日韓サマーセミナー「保健物理・環境科学2010」印象記 — AOCRP-3東京大会における学生生活動の紹介 —

近畿大学 新葉一

日韓サマーセミナー「保健物理・環境科学2010」は、原子力に関する研究を行う日韓の学生達が、国際的な交流を行うだけでなく、自身の研究意欲を高めるとともに、原子力に対する知識を深め、国家間における放射線技術の利用方法及びそれについての見解の相違について討論することを目的として開催された。大勢の韓国人学生の参加に恵まれ、活発な意見交換が行われた。本稿はこのセミナーに参加した一部の日本学生および韓国学生の印象記である。

1. はじめに

日韓サマーセミナー「保健物理・環境科学2010」は、2010年5月24日から27日まで東京都江戸川区の船堀タワーホールで開催された「The Third Asian and Oceanic Congress on Radiation Protection (AOCRP-3)」の一環として企画された。日本、韓国を中心として、諸外国の学生も加え、交流を行う会として位置づけられたセミナーである。AOCRP-3に参加した学生達は国籍を問わず、会期中の5日間、東京大学検見川寮での生活を共にし、学生同士の交流、情報交換、異なる文化とのふれあい等の機会を得ることができた。日本からは東京大学、首都大学東京、藤田保健衛生大学、名古屋大学、近畿大学、神戸大学、新潟大学（順不同）の計17名の学生達が、韓国からは13名の学生達が参加した。

2. 日韓サマーセミナー「保健物理・環境科学2010」の内容

アジア諸外国の学生達と討論を行うことを目的とした学生セッションでは、「Information/Opinion exchanging session among Asian student」という題目で、研究環境とキャリアプラン、放射線の農業応用、放射線の医療応用、放射線の工業応用の4つの分野について、基調プレゼンテーション及びパネルディスカッションをそれぞれ行った。基調プレゼンテーションは、日本人学生1名、韓国人学生1名の計2名がそれぞれの分野で選出されており、各テーマにおける両国の現状及び種々の情報を紹介した。パネルディスカッションには、予め選出された日本人学生1名、韓国人学生1名、そしてアジア・オセアニア諸国の学生3人程度を招き、自国の現状を踏まえた上で、各々の分野に沿った議題について討論を行った。ポスターセッションでは、放射線計測、放射線防護、生物影響など放射線及び原子力に関する分野の研究発表が行われ、学生達にとって自分自身の研究以外の知識を蓄える良い機会となった。

AOCRP-3の最終日は、テクニカルツアーとして日本の

原子力に関する技術を諸外国の参加者達に紹介するために、種々の施設の見学が行われた。それぞれ東京コース、千葉コース、筑波コースの3班に分かれ、放射線医学総合研究所（NIRS）や宇宙航空研究開発機構（JAXA）、高エネルギー加速器研究機構（KEK）、日本アイソトープ協会（JRIA）などの施設に訪問した。参加外国人に対する通訳や追加の説明を日本人学生が積極的に務めるなど、見学のみならず、参加そのものが非常に良い経験となった。

3. 韓国人学生印象記

Name: Dr. Ki Moon Seong

First of all, I really thank all of Japanese students for the kindness and welcome during the period of AOCRP-3. It is great honor for me to take participate in the special student session as a panelist. Although all student participants in industrial application session were not familiar with the topic of session, we've attempted to make a good discussion. Some obstacles such as different language skill, insufficient related knowledge and severely tight schedule did not block up our passion and endeavor. I deeply appreciate the effort of a chairman, speakers and panelists. Finally, I wish you, all of participants, to achieve great contribution in your fields. Thanks.

ありがとうございました！

Name: Mr. Jang Han Ki

How can we make Student sessions special? Definitely, an imitation of the regular sessions where many presentations are made in a very limited time followed by a few questions is not the model we are pursuing. I think we need more active discussions on some selected themes of common interest to share ideas or sometimes to reach common understandings. To address this goal, we have to design the sessions to attract

all the attendees having different background. In the light of this view, student sessions are well planned and I appreciate efforts of the organizers of this program. In this plenary session, we shared our views on visions of radiation protection and career development. In the following sessions, split into three sub-fields, namely medical, industrial and agriculture, two keynote speakers in each session hosted your participation to discussions. So let's be more open, feel free and make the air friendly. Active involvement is the key making our sessions special. I always envy the good regional cooperation in radiation protection among EC countries. Even in the era that the internet is spread in the world, geographical closeness is still a valuable asset. Unfortunately most of the participants in session are from Japan and Korea, but I am sure in near future other country students will join us to make a cradle for productive regional cooperation.

Name: Ms. Jung Ae Kang

I am from Korea and a graduate student of Chungnam National University in PaeJeon Korea. I'm really happy to have an opportunity to participate in AOCR-3 and to learn many facts in the conference there. Also, I think that learning and experiencing foreign culture is unique and significant thing. Especially, I felt that Japanese spa culture is impressive because I have never been to Japan. I will not forget attending Japan-Korea summer seminar in 2010. Thank you very much.

Name: Mr. Sungkoo Cho

It was my great pleasure to take part in the student session. I could gain many experience by this session. First, I met many Japanese students and I have made friends with them. Actually, I'm afraid my English is not so good. However, they tried to talk about with me and informed me for current situations and discussions. Thank you very much for those kind consideration. Second, I managed the chairman of the agricultural application session in the student session. This was the particular experience for everything that determines the topic, discusses the general topics and exchanges the opinion. Finally, I could see beautiful places of Tokyo such as Asakusa, Odaiba, Shinjuku, Tokyo tower, Sibuya and so on. The Tokyo Dome of these places had made a strong impression because Korea doesn't have the Dome. Therefore, this session will stay with me as a happy memory. Again, I'd like to express my sincere thanks to the all participants. I very

much appreciate Japanese students that prepared this meeting.

Name: Mr. Yang Kyun Parc

This is my first time to attend conference held in Japan where I have been longing to visit. Because my major in graduate school was more focused on medical field, I had little knowledge about "radiation protection" field. However, it was exciting for me to expand my mind to wider perspectives about radiation. Further, I have realized from the conference that radiation can be used in so various fields and inter-communication with each other can generate new creative ideas and synergy effects. So I decided that I will not see only my fields but will see other fields where some useful ideas can come from. The most important thing I learned here is academic conference doesn't need to be the meeting only for our fellows. I felt a great self-confidence and pride while we prepared the student sessions. Also I was very much challenged by my Japanese colleagues who succeeded to organize and manage important things for this Japan-Korea summer seminar. It was also a good experience for me to have a chance to play a role as a panelist of the student session. Even if my comment time was so limited, I could speak some sentences to audiences. I was so nervous at that time so that I had hard time to speak fluently, continuously. However, that short experience gave me not only confidence but also a great motive to go to "internationalization". I will never forget memory of AOCR-3, and I'm very thankful to everyone who gave me this chance and who organized and managed this seminar.

Name: Ms.Mi Hee Choi

It seemed to be learned society period that was short. Because Korea and Japan were near, time that I come and go was short, and to feel all learned society attendance zeal of Japan scholars seemed the best. I have been to first travel to Japan and have gone comfortable travel. Thank you very much for Japanese students that prepared this meeting.

青木克憲

私は今回、初めて国際学会へ参加した。学生セッションの中で放射線の医療応用の分野に属し、大学で得た知識をぶつける気でいたが、英語を聞き取るのに苦労した。この分野には医療を専門としていない海外の学生もいたが、英会話能力と積極性に圧倒された。学生セッション

では、自分の英会話能力の低さに落胆し、海外の学生の積極性に驚かされるばかりであった。しかし今回の経験を活かし、今後の国際学会で活躍出来るようにもっと努力をしなければならないと実感した。

東京見学では、浅草・秋葉原などを海外の学生に説明することに苦労し、逆に日本の文化などを考えさせられた。見学終了後の検見川宿舎までの帰りの満員電車で、海外の学生さんたちと共に押しつぶされたり、渋谷のゲームセンターの狭い撮影室内にみんなで入って撮影したプリクラを仲良く分けあったり、銭湯で一日の汗を流し、同じ湯船に浸かることで、言葉はあまり通じなくても、心の国際交流が少しは出来たと感じている。今まで海外の方と寝食を共にしたことが無かったので、本当に良い経験になった。

3. まとめ

AOCR-3の学生セッションとして研究環境とキャリアプラン、放射線の農業応用、放射線の医療応用、放射線の工業応用の4つの分野における放射線の利用方法について討論が行われた。研究環境とキャリアプランのセッションでは、日本と韓国との間で考え方の違いはあるものの、原子力エネルギー研究推進の方向性は一致しており、原子力施設増設や原子力産業の発展の将来性が示唆された。また、留学に対する学生達の強い関心も浮き彫りになった。放射線の農業応用、放射線の医療応用、放射線の工業応用のセッションでは、各国で主に使われている放射線の技術について紹介及び討論が行われ、両国とも優れた技術を有しており、近い将来原子力の発展を担うものであると確信した。

また、韓国や他国の学生達に、懇親会で行われた和太鼓の体験、綿菓子・ヨーヨーすくい・射的、日本人学生の引率による野球観戦や東京観光へ参加し、日本の文化に触れてもらうことができた。一方日本人学生にとっても交流の場として有意義な時間となった。そして全体を通し、両国の学生たちは非常に多くの他国の学生たちとの議論や交流を深め、自分達の研究意欲を高め、世界に目を向け様々な研究に対する知識を得ることの重要性を再認識することができた。

最後に、本セミナーの開催に際し、日本原子力学会日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業、日本原子力学会保健物理・環境科学部会、AOCR-3大会実行委員会より、経済的援助を含め、多大なご協力をいただきました。記して謝意を表します。



2011 年春の年会以降の部会企画等について

2011 年春 (at 福井大) の部会企画として、「ふげんの廃炉におけるトリチウムの処理」(仮) を提案する。

企画案提出期限：10 月中

タイトル：

「ふげんの廃炉におけるトリチウムの処理」(仮)

連携：バックエンド部会、核融合工学部会

概要：

新型転換炉「ふげん」は、平成 15 年に運転を終了し、原子炉施設の廃止措置計画の策定や技術開発を進め、平成 20 年に国の認可を得て廃止措置を開始した。現在、原子炉等規制法に従って、運転終了後も維持管理が必要な設備についての条件を考慮しながら、安全かつ合理的に施設の解体を進めている。廃止措置のための技術開発や廃止措置を通じて得られる成果は、今後の原子力施設の廃止措置のみならず、放射線管理やさまざまな研究開発において有効活用されることが期待される。

本企画セッションでは、重水を減速材として用いる「ふげん」固有の課題であるトリチウムの処理について取り上げ、合理的に廃炉を進めていくための戦略的・技術的な取り組みについて、保健物理・環境科学分野の視点から議論する。

講演案：

- 1) ふげん廃炉の概要とトリチウムの処理について
 - 2) トリチウムの処理における被ばく管理、環境影響について
 - 3) ふげん廃炉で得られる成果の活用について
- など

登壇者案：未定

参考：トリチウムに限定せず「原子炉の廃止措置と保健物理」(仮) という提案もある。この場合、「ふげん」を題材として、原子炉の廃止措置について保健物理的視点で議論する。

参考：これまでに提案された企画案

- ・「地震、事故・トラブル、テロ等による放射能（線）放出時に対する緊急時対応」
連携：社会・環境部会、原子力安全部会？
概要：地震、事故・トラブル、あるいはテロ等により、放射能（線）が放出される場合に対する緊急時対応の現状について議論したい。
- ・「国際宇宙ステーションの進展と宇宙飛行士の被ばく」
連携：放射線工学部会
概要：国際宇宙ステーションの今後の進展について紹介していただくとともに、宇宙飛行士の被ばくに着目して、線量測定や線量制限の考え方について、議論したい。
- ・ [モニタリング]
概要：1) モニタリング指針の改定、2) 原子力施設周辺のモニタリングの現状、3) 降雨による異常線量上昇、4) 気象指針の改定
- ・ [防災・緊急時対応]
連携：社会・環境部会
概要：1) 防災指針、2) 緊急時モニタリング指針の改定（一例としてヨウ素の取り込み20%を考慮した場合の線量係数）、3) 緊急時における対応と訓練、4) 緊急時対応システム（緊急時環境影響予測システムの改良や運用方法など）
- ・ [環境中物質動態予測]
概要：再処理を対象として、現状の予測レベルと課題を明らかにし、今後どのような研究を重点的に行い、予測手法を確立するかを議論する。
- ・ [環境の防護、廃棄物処分]（09秋で「廃棄物処分の放射線管理」）
 - 1) 環境の防護（一例としてネズミやカエルの線量評価）
 - 2) 環境防護（廃棄物処分と関連させる）
 - 3) 放射性廃棄物に係わる長半減期核種の環境移行
- ・ 「低線量影響」
- ・ 「被ばく低減化」

H22 追加提案

- ・ 「緊急時モニタリング」H22春の年会で流れたもの（JCO関係から切り口をどう変えるか？）
- ・ 「ICRP2007 法令取り入れと BSS 改定」学会誌連載企画や保物学会企画と関連して
- ・ 「放射線の産業分野における様々な利用」食品照射など
- ・ 「放射線に対する生体の応答メカニズム」最近開発された防護剤の話題とか

部会企画について

2010 年秋の大会（北海道大学）

（9 月 16 日（木） 13:00 ～ 14:30, M 会場）

保健物理・環境科学部会主催、社会・環境部会協力企画セッション

「リスクマネジメントとコミュニケーション 2

～原子力・放射線のリスクコミュニケーション～

座長（福山大学）占部逸正

- | | |
|--|------------------|
| (1) 第1部の総括 | (東北大学) 高橋 信 |
| (2) 原子力分野のリスクコミュニケーションと事例 | (原子力機構) 高下浩文 |
| (3) パネルディスカッション | [進行] (福山大学) 占部逸正 |
| [パネリスト] (東北大学) 高橋 信、(国際基督教大) 中島貴子、(島根大) 廣瀬昌博、(関東学院大) 織 朱實、(原子力機構) 高下浩文 | |

（第1部：9 月 15 日（水） 13:00 ～ 14:30, M 会場）

社会・環境部会主催、保健物理・環境科学部会協力企画セッション

「リスクマネジメントとコミュニケーション 1～業界別リスク対処法～」

座長（東北大学）高橋 信

- | | |
|-----------------------|---------------|
| (1) 食品業界におけるリスクへの取り組み | (国際基督教大) 中島貴子 |
| (2) 医療におけるリスクへの取り組み | (島根大) 廣瀬昌博 |
| (3) 化学工業におけるリスクへの取り組み | (関東学院大) 織 朱實 |

部会のこれまでの企画

2000 年秋の大会（青森大学）

特別報告 9 月 17 日（日）11:00-12:00, A 会場（座長：稲葉次郎、環境科技研）

ICRP の最近の活動 松平寛通（放射線影響協会）

総合講演 9 月 17 日（日）13:00-15:30, A 会場

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| (1) 原子力防災と保健物理（座長：小佐古敏荘、東大） | |
| 1) 原子力災害と放射線防護 | 加藤和明（茨城県立医療大学） |
| 2) 事故時の放射線管理 | 野田喜美雄（核燃サイクル機構） |
| 3) 緊急時計画における防災対策とその範囲 | 本間俊充（原研） |
| (2) 加速器の放射線管理（座長：近藤健次郎、KEK） | |
| 1) 加速器解体と放射線管理 | 榊本和義（KEK） |
| 2) 大強度陽子加速器計画施設の放射線安全設計 | 笹本宣雄（原研） |

2001 年春の年会（武蔵工大）

総合講演 3 月 27 日（火）13:00-15:00; F 会場

ICRP の新しい勧告の動向

基調講演「現在の検討事項に関する報告」 小佐古敏荘（東大）

コメント「低線量領域の管理と考え方」金子正人（放影協）、早田勇（放医研）

「個人線量の管理」占部逸正（福山大）、野口宏（原研）

一般シリーズ発表

「ICRP1990 年勧告法令取り入れの放射線防護上の意義」座長 近藤（KEK）

- | |
|--|
| (1) 取り入れに際して考慮されたこと；木名瀬（原研） |
| (2) 防護量と実用量；吉澤（原研） |
| (3) 内部被ばく管理における参考レベル；杉浦（東大） |
| (4) 内部被ばく線量評価コード(INDES 及び IDEC)について；山口（原研） |
| (5) ラドンの濃度限度；飯本（東大） |

「ラドンを用いた低線量影響研究の現状と課題」座長 服部（電中研）

- (1) 放医研ラドン実験施設の紹介；山田（放医研）
- (2) 生物実験研究の現状と展望；米原（放医研）
- (3) 疫学研究におけるラドン-222 およびラドン-220 測定；森嶋（近大）
- (4) 問題点の整理と今後の課題；秋葉（鹿大）

2001 年秋の大会（北海道大学）

総合講演 9月19日（水）13:00-15:30 C会場

「環境モニタリングと環境動態研究」

座長 本間俊充（原研）

- 1) 大気海洋におけるグローバルフォールアウト核種の長期動態の研究
ー長期観測結果と全球データベース化により得られたものー 青山道夫（気象研）
- 2) 環境モニタリング結果のデータベース化 桐田博史（分析セ）

座長 内田 滋夫（NIRS）

- 3) 環境モニタリング状況と環境安全研究 吉岡満夫（福井県原監セ）
- 4) 土壌-植物系における放射性核種および安定元素の移行と分布に関する研究
塚田祥文（環境科研）
- 5) 環境モニタリングデータによる放射性核種の環境動態研究 高橋知之（京大炉）

2002 年春の年会（神戸商船大学）

総合講演 3月27日（水）13:00-15:00 B会場

「放射線線源の管理」

座長 飯田孝夫（名大）

- 1) 自然放射性線源 下 道国（NIRS）
- 2) 身元不明線源 甲斐倫明（大分看科大）
- 3) IAEA と諸外国の対応例 杉浦紳之（東大）

2002 年秋の大会（いわき明星大学）

部会企画 「緊急時における支援体制」

座長：内田滋夫（放医研）

- 1) 緊急時支援体制について
野村 保氏（原子力緊急時支援・研修センター）
- 2) 地方自治体における緊急時支援体制
西田亮三氏（茨城県生活環境部 原子力安全対策課）
野村 保（原子力緊急時支援・研修センター）
- 3) 緊急時における原子力事業者の支援体制について
森本研次氏（関西電力 原子力事業本部）
- 4) 緊急医療体制について
明石真言氏（放医研 緊急被ばく医療センター）
- 5) 総合討論 15分

2003 年春の年会（アルカス S A S E B O）

総合討論 「国際放射線防護委員会（ICRP）の最近の動向と防護のキーワード」

司会進行 飯本武志（東大）

1. ICRP 各委員会におけるキーワードと議論のポイント
主委員会及び第3 専門委員会 佐々木康人（放医研）
第1 専門委員会 丹羽太貫（京大）
第2 専門委員会 稲葉次郎（環境科研）
第4 専門委員会 小佐古敏荘（東大）
2. キーワードに対するコメント
「21世紀の放射線防護体系（クラーク提案）」「環境の防護」「ステークホルダー」
「個人の防護」「防護の最適化」等
①佐久間（核融合研） ②内田（放医研） ③酒井（電中研）
④宮崎（関電） ⑤占部（福山大） ⑥塚田（環境科研）
3. 総合討論 座長 小佐古敏荘（東大、部会長）

2003 年秋の大会（静岡大学）

合同企画セッション（放射線工学部会，保健物理・環境科学部会）

「放射線障害防止法改定の意義と現場の対応」（9月24日（水）13:0~17:00 C会場）

総合司会 (KEK) 三浦 太一
座長 (九大) 石橋健二

- (1) 新しい放射線障害防止法の概要 (文科省) 茶山 秀一
- (2) 新しい放射線障害防止法の論点とその考え方 (東大) 小佐古敏荘
座長 (東大) 飯本武志
- (3) 新法令に対する現場での対応と今後の論点
 - 1) 全体論 (東北大) 中村 尚司
 - 2) 加速器施設 (KEK) 伴 秀一
 - 3) 加速器&RI施設 (理研) 上叢 義朋
 - 4) RI施設 (京大) 五十棲泰人
 - 5) RI施設 (サイクル機構) 浅野 智宏
 - 6) 医療施設 (自治医大) 菊地 透
- (4) RI廃棄物のクリアランス及び処分に係る課題 (原研) 大越 実
座長 (アイソトープ協会) 河田 燕
- (5) 総合討論

2004年春の年会 (岡山大学)

合同企画セッション (バックエンド部会、保健物理・環境科学部会)
「放射性廃棄物地中処分と生態圏影響評価」(3月30日(火) 9:00~12:00 F会場)

- 座長 (放医研) 内田滋夫、(原研) 木村英雄
- (1) 放射性廃棄物処分における線量基準の考え方 (東大) 小佐古敏荘
 - (2) 放射性廃棄物処分の安全評価における諸問題 (原研) 木村英雄
 - (3) 廃棄物処分と環境防護 (放医研) 土居雅広
 - (4) 地層処分における生物圏評価のためのレファレンスパイオスフェアの考え方 (原環機構) 内藤守正
 - (5) 総合討論

2004年秋の大会 (京都大学)

合同企画セッション (保健物理・環境科学部会、放射線工学部会)
「低線量放射線リスクと社会」(9月16日(木) 14:00~18:00 K会場)

第一部 司会: (三菱総研) 佐藤理

- 「最近の低線量放射線影響研究の成果(1) 生物学的研究」 (京大) 丹羽太貫
「最近の低線量放射線影響研究の成果(2) 疫学的研究」 (鹿児島大) 秋葉澄伯
「放射線教育」 (放射線教育フォーラム) 松浦辰男

第二部 司会: (京大) 高橋知之

- 「低線量放射線影響に関する社会の認知」 (甲子園大) 木下富雄
「低線量放射線影響と規制」 (放医研) 米原英典
「低線量放射線影響と放射線防護」 (福山大) 占部逸正

パネルディスカッション 司会: (東大) 杉浦紳之

2005年春の年会 (東海大学)

1. 総合講演 (保健物理・環境科学部会)

「討論: 保健物理・環境科学研究における若手研究者の夢」 (3月29日(火) 13:30~16:00, J会場)

座長: (原研) 木名瀬栄、(京大) 高橋知之

- (1) 保健物理・環境科学研究の期待と抱負 (原研) 木名瀬栄
- (2) リスク認知研究 (文化女子大) 斎藤聖子
- (3) 放射性廃棄物研究 (電中研) 佐々木道也
- (4) 環境放射能研究 (環境科研) 柿内秀樹
- (5) 放射線検出器の研究開発 (富士電機) 布宮智也
- (6) 放射線管理の研究 (JNC) 高田千恵
- (7) 内部被ばく研究 (原研) 横山須美
- (8) 外部被ばく研究 (原研) 高橋史明
- (9) 放射線校正場の研究 (産総研) 黒澤忠弘
- (10) 放射線治療研究 (三菱総研) 船曳淳

- (11) 宇宙放射線研究 (放医研) 保田浩志
 (12) 日本の保健物理・環境科学研究に対するロシア若手研究者の期待 (放医研) セルゲイ・トルマチョフ
 (13) 日本の保健物理・環境科学研究に対する中国若手研究者の期待 (JNC) 夏曉彬
 (14) 日本の保健物理・環境科学研究に対する韓国若手研究者の期待 (放医研) 金ウンジュ

2. 総合講演 (保健物理・環境科学部会主催, 社会・環境部会協力)

「公開討論「放射線教育の現状と課題」〔一般公開〕 (3月31日(木) 13:00~16:00, A会場)

座長: (RI協会) ニツ川章二、(東大) 飯本武志

- (1) 放射線教育の現状; 各機関・組織の活動報告
 (2) 放射線教育の成果分析; 原文振による1900名の生徒(中学生)アンケート分析結果の紹介
 1) 分析の背景と目的 (原文振) 藤井信幸
 2) 分析手法と結果 (東工大) 栗山直子
 (3) 放射線教育の展望
 1) 知りたがり始めた市民との交流から (あるかエネルギーフォーラム) 川西則子
 2) 中学・高校教諭の立場から (神大学付中・高) 中山知恵子
 3) 原子力・放射線専門家の立場から (環境科研) 石川敏夫
 4) 教育プログラムを立案、企画する立場から (原文振) 眞壁佳代
 5) 興味を持ってもらう話し方とは (原電) 小川順子

(4) 総合討論

2005年秋の大会 (八戸工業大学)

総合講演 (保健物理・環境科学部会)

「原子力施設の環境影響評価における不確実性」(9月14日(木) 16:00~18:30)

講演: 座長: 京都大学 高橋知之

- 講演1 「環境影響の不確かさ・感度解析」
 日本原子力研究所 本間俊充
 講演2 「放射性廃棄物処分の環境影響評価における不確実性」
 日本原子力研究所 木村英雄
 講演3 「一般重金属の土壌含有量基準に見る不確実性とその問題点」
 京都大学 米田 稔
 講演4 「環境移行パラメータの不確実性」
 環境科学技術研究所 塚田祥文

総合討論: 座長: 名古屋大学 飯田孝夫

2006春の年会 (日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター)

企画セッション (保健物理・環境科学部会)

「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」(3月25日(土) 10:00~12:00)

講演: 座長: 名古屋大学 飯田孝夫

- 講演1 日本海におけるロシアの廃棄物投棄及び原子力潜水艦の臨界事故
 日本原子力研究開発機構 外川織彦
 講演2 小型核兵器・放射性物質によるテロ
 札幌医科大学 高田 純
 講演3 東アジアの原子力開発の現状と日本の広域モニタリングの必要性
 名古屋大学 飯田孝夫

総合討論: パネリスト: 上記講演者3名

2006秋の大会 (北海道大学)

9月28日(木) 9:30~12:00

企画セッション (保健物理・環境科学部会)

「炭素14の環境中移行研究の現状と今後の展開」

講演: 座長: 名古屋大学 山澤弘実

1. 樹木年輪を用いたセラフィールド再処理施設からの炭素14大気放出量の再評価
 日本分析センター 磯貝啓介
 2. 閉鎖型生態系実験施設でのC-13を用いた大気・食物を介するヒトへの炭素移行実験計画
 環境科学技術研究所 多胡靖宏

3. 河川環境における粒子及び溶存態 C-14 の環境挙動
北海道大学 長尾誠也
4. 森林炭素 14 循環と環境問題への展開
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳
名古屋大学 山澤弘実
5. 炭素 14 環境中移行モデル化の現状と EMRAS での展開
京都大学 高橋知之
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳

2007 春の年会 (名古屋大学)

3月28日(水) 13:00~14:30

企画セッション (保健物理・環境科学部会)

「自然放射線被ばくに関する放射線防護の動向」

座長：福山大 占部逸正

1. 自然起源の放射性物質の管理 放医研 米原英典
2. 航空機被ばくの管理 放医研 保田浩志
3. 宇宙飛行士の被ばくの考え方 三菱総研 岩井 敏
4. 職場と一般環境のラドンの対策 東大 飯本武志

2007 秋の大会 (北九州国際会議場)

9月29日(土) 13:00~14:30

部会合同企画セッション (核融合工学部会、保健物理・環境科学部会)

「核融合実験と放射線安全」

座長：東大 小佐古敏荘

1. ITER 計画と放射線安全 JAEA 大平 茂
2. JT-60 計画と放射線安全 JAEA 宮 直之
3. 保健物理から見た核融合 東北電力 齋藤 実
4. 環境科学から見た核融合 九大 百島則幸

2008 年春の年会 (大阪大学)

3月28日(金) 13:00~14:30

部会企画セッション

「再処理施設の環境影響評価」

座長：原子力機構 本間俊充

1. 六ヶ所再処理工場におけるアクティブ試験と環境影響評価について
日本原燃 佐々木耕一
2. 東海再処理施設における環境モニタリングの経験
JAEA 武石 稔
3. 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリングの経験
青森県原子力センター 齋藤輝夫

2008 年秋の大会 (高知工科大学)

(9月5日(金) 13:00 ~ 14:30, J 会場)

「ICRP2007 年勧告のインパクト」

座長 (東大) 小佐古敏荘

- (1) ICRP 新勧告2007 年の要点 (アイソトープ協会, ICRP 主委員会委員) 佐々木康人
- (2) ICRP2007 年勧告の国内法令への取り入れの検討状況について (文科省) 桐生康生
- (3) パネル討論 (考慮すべき論点) (東大) 小佐古敏荘 [進行], 上記講演者,
(東京電力) 鈴木 晃, (放医研) 米原英典

2009 年春の年会 (東京工業大学)

(3月25日(水) 13:00 ~ 14:30, I 会場)

保健物理・環境科学部会企画セッション

「ヨウ素129 の測定技術の現状と環境中移行研究への応用」

座長 (JAEA) 外川織彦

- (1) ヨウ素129 に関連する環境および地球化学的研究 (学習院大) 村松康行
- (2) 文科省マニュアル “ヨウ素129 分析法” の改訂 (分析セ) 磯貝啓介
- (3) ヨウ素 129 の AMS 測定及びその応用研究 (東大) 松崎浩之

2009 秋の大会（東北大学）

（9月18日（金） 13:00 ～ 14:30, A 会場）

部会企画セッション（保健物理・環境科学部会）

「廃棄物処分の放射線管理」

座長（放医研）米原英典

1. 日本における放射性廃棄物処分の安全評価（電気事業連合会）加藤和之
2. 廃棄物処分における国際安全基準とその問題点（東京大学）小佐古敏荘
3. 総合討論

2010 年春の年会（茨城大学）

（3月28日（日） 13:00 ～ 14:30, A 会場）

保健物理・環境科学部会企画セッション（JCO企画）

「JCO臨界事故10年の総括」JCO事故に対する緊急被ばく医療の分野における対応

座長（大阪大学名誉教授）住田健二

- (1) 周辺住民への健康影響と緊急被ばく医療（放医研）明石真言
- (2) 周辺住民の線量評価（放医研）米原英典
- (3) 原子力安全委員会健康管理検討委員会での検討と周辺住民の健康診断（原安協）長瀧重信
- (4) 総合討論：保健物理の観点からの今後の緊急医療体制への提言